

方剂名	効能	生薬組成	
		主治および証	病機 方意
書籍			
癰瘍剤 外瘍剤 (陽証) 13			
はいのうさんきゅうとう 排膿散及湯	排膿・調和営衛	枳実 15g・白芍 2g・桔梗 9g・鶏子黄 1枚・生姜 3g・大棗 6g・甘草 6g 水煎し服用する。	
金匱要略	<p><主治> 癰膿未潰</p> <p><病機> 膿は気血営衛が鬱滞して鬱熱腐敗したものであり、排膿することにより化膿した癰毒が潰破して外泄し治療に向かうが、気血営衛の充実が不足すると癰毒の排膿が不十分になり、未潰のままで癰瘍の悪化をきたす。 排膿の枳実・桔梗が主薬で、白芍・鶏子黄・生姜・甘草・大棗は中焦営衛の化源を振奮し、酸甘化陰（白芍・甘草・大棗）と辛甘化陽（生姜・甘草・大棗）の意味をもち、営衛を充実することにより排膿を促進する。</p> <p><参考> 本方（排膿散及湯）は、排膿散（枳実・白芍・桔梗・鶏子黄）と排膿湯（甘草・桔梗・生姜・大棗）を合方したものである。 本方（排膿散及湯）は、一般的に清熱解毒、祛痰排膿、和胃の効能をもち、消炎、鎮痛、排膿、抗菌の目的で用いられることが多い。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 患部が発赤、腫脹して疼痛を伴った化膿症、瘍、癰、面疔、その他の癰腫症</p>		